

2. 指標設定

成果指標	指標名	観光入込客数	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	2,094,000人			豊後大野市外からの観光入込客数を増加させることを指標とし、数値設定はH20年度時点の道の駅のレジ客数の2.5倍とした。			
活動指標	指標	a	観光イベント集客数	b	c	d		
	数値	目標	264,000人	目標	目標	目標		

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H23	H24	H25
観光入込客数	人	1,662,000	1,615,000	1,599,000
	%	79.4	77.1	76.4

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 観光イベント集客数	人	221,000	210,000	208,000
	%	83.7	79.5	78.8
b		-	-	-
c		-	-	-
d		-	-	-

4. 課題と対応

課題
イベントに対する経済効果の結びつきが懸念されている。
対応（改善点等）
イベントのあり方、補助内容等について関係団体と見直しを行う。

5. 事業費・・・H23～H25（決算額）、H26（予算現額）

決算額（千円）		H23	H24	H25	H26
		53,939	54,017	54,173	51,453
うち経常経費		53,939	54,017	54,173	51,453
財源内訳	国費				
	県費				
	市債				
	その他				
	一般財源	53,939	54,017	54,173	51,453
うち経常		53,929	54,017	54,173	51,453
事業費に係る人件費		1,290	3,693	3,923	5,544
事業費に係る人役		0.30	0.86	0.90	1.25

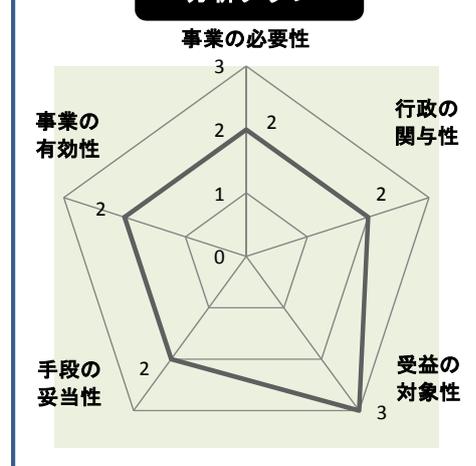
6. H27年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
ツーリズム協会の立ち上げを行うため。

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	2 一部イベントに関しては見直す必要がある。
② 行政の関与性	責任領域の精査	2 行政と住民との責任分担の見直しをする。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3 イベントによる交流は市民に寄与するため。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	2 目標達成のために適切な手段であるが、検討の余地がある。（経済効果への結びつけ）
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	2 期待したほどの成果があがらなかった。

分析グラフ



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
見直し	イベントのあり方の見直しを行い、効果的な事業展開を図ること。